

岸和田市議会議員 友永 修 (ともながおさむ)

第 3 回定例会にて一般質問に立たせていただきました！！

☆第三回、岸和田市議会本会議が行われました。(8/26～9/11)

- 生活困窮者自立支援について…生活保護に至る前段階の生活困窮者などを対象にした相談窓口の設置を自治体に義務付ける法律が平成 27 年 4 月から施行されます。本年は、包括的な支援体制を構築する為の準備期間であり、相談者への就労・住居確保・個々の問題解決など、多様な支援メニューが必要と考えられます。その為、福祉関係部局だけでなく商工労働・住宅・教育・税保健関係など幅広い部局間の連携が重要であります。一人でも多く、困窮状態から脱してもらう支援を充実させる事により、扶助費を抑え、他の福祉サービスをより充実させるよう訴えました。行政として、庁内外の連携を強化し支援充実に努めると答弁されました。体制構築の経過をしっかりとチェックして参ります。
- 生活保護受給者の自立支援について…改正生活保護法が目玉政策である、就労自立給付金制度を利用し、就労意欲の啓発と働き世代の自立を推し進めるよう要望致しました。10 月から、ハローワークが庁内に設置されるので、密度の濃い就労支援をより図って参りますと答弁されました。
- 認知症予防対策について…高齢化率 24.2%の本市において、認知症の方が 4000 人を超すと言われており、高齢化が進むにつれ不安が大きくなると考えます。ゆえに、軽度認知障害(認知症ではありません)の時点で改善策を図る事が重要です。この軽度認知障害を高精度で判別できる、スクリーニングテストを導入し、適切な予防策が行える環境をつくるよう強く要望致しました。判定後の対象者への支援体制も含め、導入に向けての前向きな研究を進めると答弁されました。

今 後 も 皆 さ ま の お 声 を 市 政 に 届 け て 参 り ま す ！

“友ちゃん”のつぶやき

いつも議会活動に、ご理解とご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。本年8月に公表された、2014 年版厚生労働白書の中に「健康寿命」についての項目がありました。介護を受けずに自立して生活できる健康寿命の重要性が増しているとのこと。日本人の健康寿命は2010年時点で、男性・女性ともに世界一。しかし、平均寿命との差が男性で9.13歳、女性で12.68歳あります。白書では、この差を縮めていくことが重要とし、現役時代から運動習慣や食生活の改善などに取り組むことで、生活習慣病を予防することが必要だと訴えておりました。政府も新成長戦略で、2020年までに健康寿命を1歳以上延ばすことや、メタボ人口の25%減少(08年度比)を掲げています。やはり、超高齢化の時代にあって、介護予防・健康促進の対策を推し進める事は重要な課題であると考えます。以前より、介護予防・健康促進に関する一般質問や提案・要望を行って参りましたが、今後もさらに取り組みを進める決意であります。そして、これまで以上に皆様の声をしっかりと受止め市政に反映し、安全・安心の住みやすい街“岸和田市”を構築して参ります！！



ひとりの人を大切に！

いつも感謝の心で！

